



第22号

「PMFを応援する会」会報

協奏

2020年11月30日

## Greetings to all our PMF friends in Sapporo!

It has been very frustrating for us that we were unable to join you this summer and heartbreaking to see so many opportunities for sharing music lost to the pandemic. As Leonard Bernstein himself said, "It is the artists of the world, the feelers and the thinkers who will ultimately save us; who can articulate, educate, defy, insist, sing and shout the big dreams."

It's very hard to be deprived of our beloved human connections, as well as the music to celebrate those connections. Still, it has been heartening to see how the arts have kept us connected on a global scale by adapting to a more digital landscape and, as with the concert presented by PMF alumni in Odori Park this summer, to social distancing guidelines for live performances. This helps us remember that in time, the arts will return stronger than ever.

We wish everyone good health and all possible strength for getting through this difficult time. We can't wait to join you and share music again when our world has returned to normal.

Warm Regards,

Jamie Bernstein, Alexander Bernstein, Nina Bernstein Simmons, and the Leonard Bernstein Office



© Courtesy of The Leonard Bernstein Office, Inc

## わたしたちの大切な 札幌におられるPMFの友人みなさんへ

この夏みなさんと一緒にできなかったのはとても残念なことでした。パンデミックのために、音楽を共有するための多くの機会が失われたことには本当に心が痛みます。レナード・バーンスタインは次のように述べています。「究極のところ、わたしたちを救ってくれるのは世界の芸術家たち、感じることを大切にしている人たち、そして深く考える人たちです。なぜなら、大きな夢について言葉を与え、教育をし、権威に従わず、強く主張をし、高らかに歌い、声を上げるのは彼ら彼女たちだからです」と。

音楽はわたしたちが本当に大切にしている人と人とのつながりを賛美しますが、そうした人と人とのつながりは容易に奪われることがありません。この夏、ソーシャルディスタンスのガイドラインを守ることによって実現した大通公園での修了生たちのライブのように、こうした状況にあっても、よりデジタル化された光景へと適応することで芸術が私たちが地球規模でつなげてくれつつづけていることを知ると本当に勇気づけられます。このようなことがらによってわたしたちは、芸術が今まで以上に強く戻ってくると考えることができますね。

みなさんの健康と、この辛い時を乗り越えることのできる強さを持ってくださることを祈っております。わたしたちの世界が日常へと戻り、また一緒にさせていただける日を、そして再び音楽を共有できる日を、心待ちにしております。

心を込めて

ジェイミー・バーンスタイン、アレクサンダー・バーンスタイン、ニナ・バーンスタイン・シモンズ、  
そしてレナード・バーンスタイン・オフィス一同

## 寄附 2020年3月24日

皆さまから託された募金から、20万円をPMF組織委員会  
上田文雄会長にお届けしてまいりました。これまでの寄附  
総額は5,825,000円となりました。皆さまの熱い思いに支  
えられ、勇気をいただきながら続けてこられた毎日でした。  
あらためて深く感謝申し上げます。



また、組織委員会から今年も感謝状を頂きました。その  
時の写真はみんなマスク姿。新型コロナウイルスの感染を  
広げないように気をつけている、思い出の写真です。

その後、PMF2020の中止が伝えられましたが札幌から発  
信される音楽文化の大切さを今まで以上に感じています。

今後とも、変わらぬご支援ご協力を賜りたく、宜しくお  
願い申し上げます。



## 2019年度事業報告 (2019年4月1日～2020年3月31日)

### 《活動状況》

- 前年度会計監査 (於 監事事務所) ..... 4月1日
- 2019年度定例総会 ..... 4月15日
- 会長就任 丹羽祐而 ..... 7月2日
- 市長主催オープングレセプション出席 ..... 7月5日
- 「協奏」20号、21号発行、発送 ..... 5月13日、10月7日
- PMF組織委員会へ寄附金贈呈 ..... 3月24日
- 定例役員会開催全13回 ..... 2019年4月15日～2020年1月3日
- HP管理

### 《主催事業》

- カフェサロン#29 ..... 5月25日  
SCARTS EVENT / 展示&コンサート (於 札幌文化芸術交流センター)
- カフェサロン#30「オープングで会いましょう」(於 札幌芸術の森) ..... 7月6日  
募金者、市民とアカデミー生交流
- カフェサロン#31 10周年記念フォーラム (於 パークホテル) ..... 2月17日
- フェローミーティング (於 ホテル M プレミア) ..... 7月5日  
// (於 パークホテル) ..... 2月17日

### 《パトロネージュ・マネージメント事業》

- シートオーナープログラム; PMFコンサートのチケット贈呈 ..... 7月9日 @キタラ U25演奏会  
(光塩学園、吉田学園、福住小、他)
- ピクニックコンサートご案内 北工学園留学生 (東川町) ..... 7月13日 ピクニックコンサート
- 小樽ツアー; アカデミー生招待パトロネージュ事業 ..... 7月24日
- パトロネージュ テーブルディナー; アカデミー生夕食招待 ..... 7月28日  
(パトロン4グループ/38人招待)



# 2019年度募金報告



2019年4月1日～2020年3月31日

募金ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

## 募金者名

敬称略、五十音順／募金額

赤石尚一	赤石知恵子	阿部千秋	雨貝尚子	荒谷宜子	安藤佳枝	井浦功雄	池田静子
池本光博	石塚米子	石橋喜重子	伊藤敬子	氏家公子	大久保玲子	大谷慎一	大谷洋子
岡部文子	岡元眞理子	奥村道子	小野美代子	表山千春	葛西皮膚科	金谷眞木子	川崎美紀
河島瑛子	川端習太郎	河邨宣子	川本悦子	木村清順	國松明日香	倉岡修子	(有)小泉建業
久住孝之	熊本寛見	後藤弘子	小林英嗣	今裕子	近藤崇	近藤光子	西條雅穂子
齋藤晋吾	齋藤美登里	齋藤美年子	齋藤淑子	榊原綾子	坂本慶子	佐々木勇美	札幌21の会
佐藤勝子	塩澤正樹	島田宏子	白土二七子	杉本猛	鈴木敏明	鈴木陽子	須田和子
鷺見武	鷺見陽子	関寛	関蓉子	大黒自動車(株)	鷹野正義	高橋来	高橋実規子
高浜真理子	田熊勉	竹部玉枝	多田和義	田中薫	谷口哲雄	土屋陽子	天日彰子
天日一光	徳永純子	徳永隆史	徳永洋	中島禮子	中野敏仁	中村和雄	鍋田多美子
西川優	にわ糖尿病内科クリニック		根本常子	野上まさ子	野澤千恵子	野呂洋子	畠謙二
橋本信夫	花井美恵子	浜辺と海をきれいにする会			廣瀬キミ子	廣田聡	福本順子
藤田澄江	藤森亜矢子	藤原夏樹	古川善雄	星野慶子	本間ひとみ	本間良子	前田薫
前田清子	牧原和美	(株)誠塗装店		松川早苗	三谷和央	(株)宮部	八木幸三
(株)メディカルシステムネットワーク			山際豊重	山下喜美子	山中幸光	山本和子	湯原光子
横山憲治	横山圭子	四ツ柳奈央	吉田幸弘	若月富男	若月公子		
オープニングで会いましょう募金箱			@scarts イベント募金箱		ほか匿名		

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
募金額 1,077,300円	16,000	220,100	72,000	333,200	3,000	0	102,000	143,000	29,000	26,000	12,000	5,000
募金数 150件	5	45	19	16	1	0	32	7	5	8	11	1

※指定寄附：小樽ツアー 292,200円、フォーラム 170,000円、スカーツイベント 11,920円 含む

## 2020年度事業展望

(2020年4月1日～2021年3月31日)

新型コロナ禍のためPMF開催が比較的早い時期に中止と決まり、当会の事業も足踏み状態。しばらくは役員会開催も見合わせている状況でした。

しかしこのような時ほど活動の継続と活性化が必要と確信し、今後の活動を検討しています。

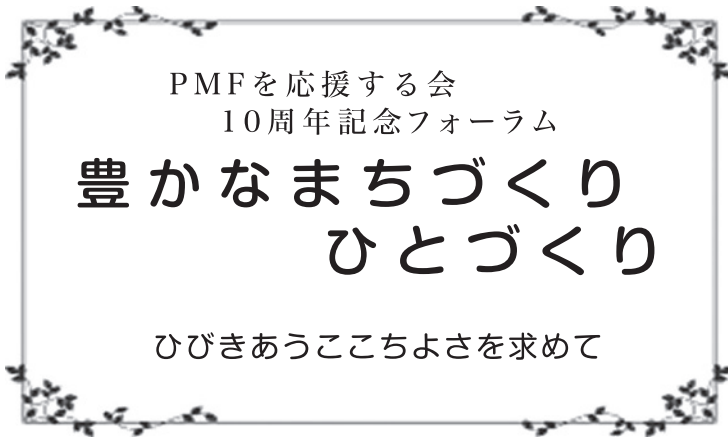
- 組織委員会に要望して、8月27日、両者で懇談会を持ち、2020年以降の協力・応援を約束  
また、市民へのより一層の啓蒙を要望
- 募金活動活性化のため、新たなシステムについて具体的検討に入る
  - ・クラウドファンディング、ポチット募金他について模索中
- 今後のPMFの継続的開催に鑑み、若い世代を取り込む活動を中心に考える
  - ・リンクアップコンサートの効果的活用、吹奏楽関係への呼びかけなど検討
  - ・PMFのストーリーを若い世代に語り継ぐ策は？
  - ・「PMFヤングフォーラム」の開催はどうか？
- 世界中で活躍する修了生からのリレーメッセージのホームページへのアップ
- フェローメンバーのリモート会議開催
- 「協奏」の定期発行

# 10周年記念フォーラム

2020年2月17日（月）13:30-16:30  
会場：パークホテル1F テラスルーム  
出席者77人

PMFの継続と発展を願い市民とのつながりを目指して発足した当会も10周年迎えました。

文化芸術資産としての音楽祭が育まれていくヴィジョンを想像しながら「まち、ひと、くらしの豊かさ」に視点を置いて、フォーラムははじまりました。



## プログラム

### 演奏 「奏樂」

岩崎弘昌 小林佳奈 前田朋子  
オーボエ ヴァイオリン ピアノ

### パネルディスカッション

コーディネーター：丹羽祐而（応援する会会長）  
パネリスト：小林英嗣（北大名誉教授）・國松明日香（彫刻家）  
榊原綾子（PMFボランティア「ハーモニー」コーディネーター）  
◆榊原氏欠席のためメッセージ代読

### テーブルトーク



会場風景：  
パネルディスカッション前  
の演奏



パネルディスカッションの様子をお伝えします

### 小林英嗣氏のお話は

- 世界的な建築家、都市計画家であるアルヴァ・アールト（フィンランド）やヤン・ゲール（デンマーク）を紹介しながら人間中心のまちづくり、人間と呼吸しながら人間の居場所を感じる事が大切。
- ものを作るということ、人が生活すること、そこで育った子どもたちが次の子どもたちへ伝えていくことに誇りを持って欲しい。カッコいい作品は20年でおわり、50年100年残り成熟していくものを作らなければならない。
- フィンランドの生活に触れ、夏は明るい冬は暗い、ランチのあとは暗くなる。鬱にならないの？と聞くと冬を聖なる季節と考え、一年間やってきたこと、春になったらどうするかじっくり考え、静かな時を堪能している。手ざわりのいい家具もあれば、奥さん子どももいて美味しい食事もあると楽しんでいる。

### 國松明日香氏のお話は

- 時間に制約を与えられていた時の方が時間を上手く使っていた気がする。
- パネルディスカッション前の冬景色の中で奏でられた音色が素晴らしくて…と会場の雰囲気大切にしながら、チェリストになりたかったがチェロはオブジェとして置いているくらい挫折感が強い。その後彫刻家になっていく。
- 音楽は耳から直接脳に響いてきて心を震わせ感性に訴えてくるところがあるのに対し美術は何を描いているのかとか、頭の中のことを考えてしまう。
- PMFに関しては札幌に定着させていくことは素晴らしく、子どもたちが音楽を聞く機会を得ることで人間性を育んで行って欲しいし、札幌に歴史を刻んで行って欲しい。
- 彫刻はデッサンをしないで、完成予想だけ。ア～でもないコ～でもない「音」を考えながらどんなものが出来上がっていくかというのが楽しみ。作りながらタイトルが浮かんでくることもある。

さらに、郷土、北海道、気付かない豊かさ、回復というプロセスの中に・・・と話題は広がりました。

残念ながら欠席の榊原綾子氏は出会いや暮らしを通して気づく近くにある豊かさをメッセージに託しました。



お茶とお菓子の休憩をはさんでテーブルトークの時間。

会場には9テーブル、どのテーブルからも和やかな談笑が聞こえてきました。主な意見を紹介します。

- オペラが1万円もするのは高すぎる。若い人に広げると言うのであれば、もっとチケットの料金を安く。
- 市民が普通にPMFを聞きに行こうという環境づくり、雰囲気作りが求められているのではないだろうか？
- パネルディスカッションで話が出た海外の良いところをもっと聞きたかった。北欧の良さをもっと聞きたい。
- 文化でまちおこしという割には底辺まで伝わっていない。
- 「札幌の街は素敵」という札幌以外で育った方の言葉に、札幌で生まれ育った私には札幌の魅力を再認識。
- ピクニックコンサート、原っぱの上では子どもたちが遊んでいる、大人はビールを飲んでいる、ステージからは音楽が聞こえてくる、Aの音を出した時に、子供たちがAの音を口ずさむ…これこそ音楽という感じがした。
- 想像力があれば、芸術はどんどん膨らませることが出来る。こうした文化芸術を通じた街づくりが求められている。



## 10周年記念フォーラム参加者からの声

10周年記念フォーラム「豊かなまちづくり ひとつづくり」に参加して 藤女子大学文学部文化総合学科 蒲澤 美幸

今回の記念フォーラムに参加させていただき、私の芸術に対する考え方が少し変わりました。フォーラム中のテーブルトークでは、たまたま國松先生と同じテーブルとなり、先生からは教育のことなどについて、様々なご意見をお聞きすることができました。國松先生が創作された彫刻が私のとても身近なところにあると気がつき、またその彫刻の一つ一つに札幌市や札幌市民への思いや願いが込められているということがとても心に響きました。

私は中学校、高校でも、また大学でも、勉強をする上で知識を得ること、そして礼儀や常識を知り身に着けることが大切だと思っていました。しかし、身の周りには、國松先生のような芸術家が思いを込めて作られた彫刻や、地下歩行空間でPMFに関係のある方が演奏されているといったような芸術が多くあり、市民だけではなく札幌を訪れる多くの人々が幸せになれるような空間が作り上げられていることにあらためて気がつきました。

私たち学生は社会に出た後で、自分が困らないために勉強をしていると考えがちですが、その勉強の成果は多くの人に幸せや豊かさを与える仕事や活動につながる可能性を持つものだと思います。

そのためには、最初から自分と深い関りがないと決めつけるのではなく、PMFなどの方々の活動や身近にある芸術作品や文化にもっと注目して、自分とどのような関りがあるか、自分には何ができるかということ、よく考えることが重要だと思います。

特に新型コロナウイルス感染症が流行してしまい、今まで気にも留めていない当たり前のことが失われ、心の余裕を無くしてしまいがちな今だからこそ、札幌がより活気ある温かい街になるために、学生にでもできることは無いかながら行動していきたいと思っています。

コロナ禍を奇貨として (株)ファーストコネク ト 代表取締役 宮副 俊彦

"世界中を蹂躪し続ける新型コロナウイルス。音楽界が受けている影響も大きなものです。PMF2020も中止となり、みなさんも肩を落としたことでしょう。

そんな中、注目されるのはオンラインによる音楽配信ですが、コンサート会場特有の臨場感がない、スマホやパソコンが使えず楽しめない、そのような気持ちから前向きではない音楽ファンも少なくありません。

しかし、音楽を生で楽しむこととオンラインで楽しむことは共存できるはず。みなさんの周りにもきっと、音楽を楽しんでみたいけど一歩踏みだせていない人たちがいます。子供がいるから、知識がないから、誘ってくれる人がいないから。そんな人たちにオンラインがひとつのきっかけを与えてくれると思うのです。

コロナ禍を奇貨として、PMFにも是非オンライン推進を期待します。そして札幌発の素晴らしい音楽を、今まで楽しみ方を知らなかった多くの仲間たちと一緒に楽しみましょう！

## フェローミーティング 2020年2月17日 (パークホテル) 11:00-12:30

①応援する会の2019年度活動の報告

②今後のPMFに望むための整理・分析、PMF文化を享受する側への働きかけなど

- ・PMFファンが誇りを持って参画できる仕組みが必要
- ・PMFの何がいいのか？
- ・国際性そして、相互に知る異なる文化
- ・豊かな教授陣、質の高い向学心の高いアカデミー生
- ・豊かな文化を享受している我々が、何をするか、何が出来るのか
- ・質を落とさずに市民に伝え盛り上げていけるか？
- ・若い音楽家を育てると同時に市民も育つ場に
- ・若い人に音楽を知らせる機会を大事に
- ・サッポロ拠点の音楽祭を大きく育てたい
- ・まちづくり、ひとつづくり

フェローミーティングはPMFの発展と継続を願う識者から助言、提言を受けるために設けられた会議で必要に応じ開催されます。フェローのそれぞれの経験に基づく知見や協力は会の運営に欠かせない力となっていますが報酬は無く、会議の参加費も自費となっています。



## 「PMFに寄せる想い」

大平まゆみ

ヴァイオリニスト

PMFを応援する会 フェロー

大きな夢に胸を膨らませ、がむしゃらに突き進んでいく青春時代。私にもそういう時があった。1977年、アメリカ、タングルウッドでの音楽祭は人生を変えてしまうほどのできごとだった。留学して初めての夏、世界中から集まってきた優秀な音楽家と一緒に演奏できる幸せを毎日満喫していた。しかもバーンスタイン、小澤征爾、テンシュテットと世界トップの指揮者が続く。とんでもないほど刺激的だった。その経験が私のその後の進路に大きな影響を与えることになったのだ。



札幌が世界に誇る教育音楽祭PMF。毎年多くの国々から集まってくるキラキラした若い演奏家たち。その素晴らしい演奏に涙が止まらないこともあった。ムーティー指揮、シューベルト作曲グレートシンフォニーの演奏を忘れることはないだろう。時代は変わり続け、移動、情報・世界がどんどん近くなっている今、あらゆる意味で変化していくこの世の中でクラシック音楽界もこれから変わっていくに違いない。若い演奏家たちはどのような活動をしていくのだろう？



カフェサロンでのセッション  
2018年2月

個人的なことになるが、私が3才の時から教えてきた、あるPMF卒業生は、現在アメリカのオーケストラのメンバーとして活躍している。アメリカのコロナウィルスのニュースを耳にするたびに彼女のことを思い出す。世界が大きく変わってしまった今、先が見えない不安定な状況が続いているが、経営が大変な数々のオーケストラはどのようになってしまうのだろうか。若い音楽家たちの将来が気になってしかたがない。

音楽の力は偉大だ。いつになっても必要とされ続けることを信じている。このコロナ禍でやむなくオンラインでの配信コンサートが増えた。そういう時代に突き進んでしまうのだろうか。空気の振動を体全体で感じる事ができる生の音を忘れないでほしい。そして札幌にあの若いエネルギーな音色が響き渡る日が戻ることを願ってやまない。

### 大平まゆみさんの近況です

高山秀毅 AIR-G'クラシック番組「朝クラ！」担当・ラジオDJ  
PMFを応援する会 監事

大平まゆみさんは難病 ALS のために、厳しい闘病生活を送っていらっしゃいます。でもそんな中、私が、まゆみさんにメールを送ると「長文」の返信をしてくれます。しかも内容が、まゆみさんらしいのです。「季節を感じるフレーズ」「時事ネタ・世相ネタ」。ご自身も大変なのに「相手を労う締めくくりの言葉」など、以前と何も変わっていない事にホッとします。

そんな、まゆみさんをバックアップしているのが、視線でパソコンの文字を選んで入力する「意思伝達装置」です。

この装置は、「読み上げ機能」もあって「おしゃべり」も可能です。しかも、「ボイスター」という最新技術をプラスすると「まゆみさんの声」でおしゃべりすることができるようになります。私のラジオ番組「朝クラ！」で録音・放送後も長期保存してあったトークの音声データを使って調整されました。この装置が大平まゆみさんの活躍の場を広げる一助になる事を願って止みません。



大平まゆみさん！  
「第74回北海道新聞文化賞・社会部門」（10/27 新聞発表）の受賞、本当におめでとうございます。

## PMF2021に向けて

例年はオーディションの実施要項を発表する時期ですが、来夏のPMFオーケストラは、今年のPMFに参加する予定だった合格者で結成しますので、オーディションは行いません。

難関を突破した彼らの努力をウイルスの影響で無にすることは、世界の若者に平等にチャンスを与えるPMFの理念に沿わないものと考えました。

アカデミー生たちが安心して来札し、PMFで音楽に専念し、皆様に楽しんでいただけるよう、主催者として最善を尽くします。

## PMF Connects LIVE! (修了生による生演奏コンサート)

<https://www.pmf.or.jp/jp/schedule/connectslive.html>

この秋からは「コネクト・シリーズ」のライブ化が決定し、その第一弾として9月5日に大通公園を会場にコンサートを行いました。PMF修了生によるユニットがお届けする生演奏は2021年3月まで続きます。

実施の際は、新型コロナウイルスの感染予防対策を徹底しております。

PMFホームページでコンサート情報をご確認のうえ、ぜひ演奏会にお越しください。



修了生のユリー・パポヴィッチさん(ヴァイオリン)がデザインしました。  
今はまだ「実際の握手」は避けたほうがいいですが、気持ちはしっかり音楽でつながっていることを表現しています。

## 振り返ると・・・

### ●PMF2020の開催中止を決定

PMF2020で学ぶ予定だったアカデミー生は、オーディション合格者72人のうち、海外在住者は8割を占めています。また、PMFでは若手音楽家たちの指導にあたる指揮者やファカルティなども欧米のアーティストを中心に構成されています。

私たちは、年明けから新型コロナウイルス感染症に関する情報を注視していました。

しかし、世界的な感染や日本への入国制限措置の強化など、開催時期の動向を見通せない状況では世界各国からアカデミー生やアーティストが集まれない可能性があるとともに、お客様の安全の確保を考慮し、4月上旬に「中止」という苦渋の決断をしました。

### ●PMFコネクト、夏フェスをオンライン開催

PMFはじまって以来の開催中止により、一堂に会して生演奏と感動を分かち合う機会が失われました。しかし、このような時こそ、人々に勇気や希望を与える音楽の力を信じ、ともに困難な時期を乗り越えていきたいと考え、世界中の修了生や教授陣などから送られた、演奏を発信する新たな取り組みとして「PMF Connects」(動画配信<https://www.pmf.or.jp/jp/gallery/movie.html>)を4月20日から始めました。

さらに、音楽祭のアーカイブを様々な切り口で再編集し、PMFとファンとを結ぶ祭典として「PMF Connects ~ 2020 Summer Festival ~」を、本来PMF2020を開催する予定であった7月10日から8月3日までの25日間、公式ウェブサイトでオンライン開催。期間中は延べ87カ国・地域で約48,000人の皆様にコンテンツをお楽しみいただきました。



PMF Connects ~ 2020 Summer Festival ~

今年で創設から30周年を迎えたPMFの数々の名演が詰まったアーカイブは、クラシック音楽ファンにとって、夢と輝きに満ちた宝の山です。1990年から多くの企業や団体、個人の皆様によるご支援の賜物であるコンサートの音源や映像を、改めて楽しんでいただく機会になったものと考えています。

2021年の夏、ふたたび“音楽の夏”に!



いま、「新型コロナウイルス」という言葉を聞かない日は無い。それどころか、毎日の新聞のどの紙面でも、どの時間帯のテレビニュースでも、この言葉の猛威と氾濫を許したままだ。

我々が愛するPMFも中止。思えば人類の歴史は感染症により同じような地獄を見てきた。とはいえ、今回の事態にしみじみと思いをいたすことがある。「グローバリズム」だ。国内外で距離感を無くしたがゆえに襲われる「恐怖」。もうひとつは「社会の実相の暴露」。隠蔽されていたかみえた現代社会の問題や矛盾の露出である。また、豊かにみえる裏で格差社会のさまざまな厳しい現実も裸になる。

こうした中「新しい生活様式」「コロナ後の世界」という主張や論議がひろがっている。そこから生まれいずる文化的「創造と表現」を拒むものではない。が、PMFやクラシック音楽がそうした潮流の新しい一面だけに大きく傾斜、



今年のはじめ頃より、新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、ほとんどすべての経済活動や文化活動が停止してしまいました。今や札幌の夏の風物詩として30年以上も続くPMFもご多聞に漏れず中止となってしまいました。毎年心から楽しみにしていただけに来年までお預けかと本当に残念な気持ちでいっぱいでした。

しかし、関係者のご尽力により、PMFの修了生などによる小編成のコンサートを大通公園などで開催されることを知り、すぐに申し込みをしました。

第1回目の9月5日は雨の予報だったにも関わらず、抜けるような青空の気持ちのよい天気恵まれ、天も味方してくれたのかと安堵しました。

演奏してくれたPMF修了生などは、今や国内外のオーケストラなどで活躍している俊英だけあり、ブラスアンサンブル、フルート四重奏、弦楽四重奏で大いに楽しませてくれました。生演奏は本当に心に沁みますね。とてもいい気

偏向してもらいたくない。

私は70代のアナログ人間である(笑)。青春時代は赤提灯や居酒屋で口角泡を飛ばして議論に熱中したものだ。PMFもしかり。克服しよう。Social Distance, Physical Distanceを。

PMFではピクニックコンサートで仲間と肩を寄せ合いたい！会場の「空気の振動」が流露、醸し出す人生の哀歓も共有したい！演奏家と聴衆の直接の息づかいや触れ合いも味わいたい！

世界の若き音楽家たちがこの札幌に集い、彼の地に行く。地球がどんなに縮もうとも、その土地の風土、歴史、文化のなかで育まれるものがあると思う。これはアナクロニズムでしょうか。バーンスタインさん、いまどう思っておりますか？ (横山憲治)

持ちで聞きほれておりました。修了生の皆さんには心から拍手を送りたいと思います。

ただ少し残念だったのは、PMFの主催事業である割にはPMFのこれまでの歩みや歴史などがほとんど触れられていないように感じました。もっとPMFを宣伝してもよかったですのではないのでしょうか。

聴くところによると、これだけ回を重ねてきたPMFもいまだに存在すら知らない市民が少なからずいるとのこと。

せっかくの機会だったので、パネル展示するか過去のポスターを掲示するかMCで歴史や経過に触れる説明をするなどもっとPMFのことを知らせる必要があるのではないかと思います。

これからも末永く続いてほしいPMFですから多くの市民が心から愛せる音楽祭であってほしいものです。(PMFをこよなく愛する一市民)

### お知らせ

監事、廣田聡氏が昨年11月に逝去されました。発足以来、会の運営を見守っていただきました。深く感謝申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

新監事、高山秀毅氏就任。7月から役員会議にも参加いただいております。

高山秀毅氏はAIR-G' エフエム北海道アナウンサー。毎日曜日6:00～6:55放送「朝クラ！」でクラシック音楽の魅力を伝えています。

### 訂正

協奏21号/P2/PMFへの断章・2/ 音楽専用ホール…1994年[竣工]を〔着工〕に訂正いたします。

### 編集後記

これまで積み重ねてきたものを消し去りながら猛威を振るう新型コロナウイルスに茫然とし、立ち止まるしかありませんでしたが、ようやく未来に向け動き出しました。PMF組織委員会も専門家を募って「PMF将来ビジョン2020」を策定しました。全ての人々の思いを集めて、これからの30年に向け、PMF継続のため歩み続けることを確認しましょう。当会はPMFを応援するばかりでなく、市民の寄附文化の熟成を願っている組織です。募金用紙も刷新いたしました。今後とも、お心をお寄せいただけますようお願い申し上げます。(M)

**「協奏」は皆さまの募金で作られています。  
ご支援に感謝申し上げます。**

発行 PMFを応援する会

〒064-0913

札幌市中央区南13条西5丁目1-1-203 近藤方

FAX: 011-301-3851

ホームページ: <http://pmf-support.main.jp/>

(協奏バックナンバーもご覧いただけます。)

(印刷協力 株式会社マルシン)